

がんばれ！福島のりんご新聞

発行日 1月5日

発行者

井上睦美

放射能との戦い

2011年3月、原発事故により、福島市内にも放射線量が上昇した。そこで、果樹農家では、放射能を落とす、除染作業をこまめにしている。



福島市飯坂町から届いたよ。

福島りんごの歴史

明治

明治21年、阿部又兵衛が、あぶくま川の向かい側で「やまどり」というりんごを初めてさいばいする。

昭和

桑のさいばいをやめて、果樹園を始める農家がふえる。「いわい」「あまひ」「スターキング」の3品種が盛ん。

りんご収量が全国5位

現在

安全で環境にやさしいさいばい、木のホチキ加工品の開発などで、果樹さいばいの活性化を目指している。

平成

甘みの強い「ふじ」が8割を占めている。後継者不足や、住宅工場の進出などで、果樹園は減っている。

安全なりんごに

農家のみなさんの懸命な努力の結果、果樹園の放射線量は低減した。現在福島市では、出荷するりんごの放射線量の測定を行っている。

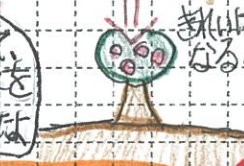
高圧洗浄機で本体や葉に水を洗ったり、皮をけずったりする。



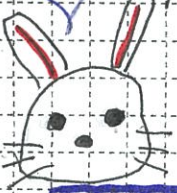
雑草を刈ったり、表面の土をけずったりする。



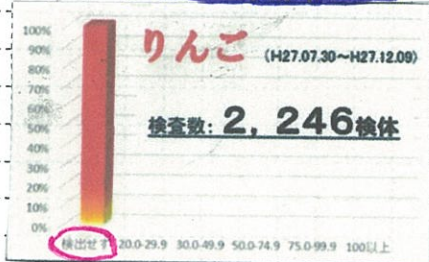
木を切って、新しい木を植えたものは



福島のりんごは安全だ。



りんごの放射線量検査結果



(JA新ふくしまホームページより)

調査みて、福島のがんが、安全に作られています。農家さん、お返事をいただきました。これからも福島のがんを作ります。

井上睦美さん
メールありがとうございます。一生懸命に作ったものを、美味しいと言ってもらえて私たちが大変うれしいです。新聞に書いて下さるんですね。ありがとうございます。これからも皆さんに喜んでもらえるように果物作りを頑張っていきたいです。
安斎果樹園

応援しよう！福島のりんご

化学肥料でなく、自家製の油かすなど、有機質肥料を使った土づくりに取り組んでいる。

有機質肥料



作られていて、安全がで

減農薬

害虫からりんごを守るために、性フェロモン(コンフェーザー)を利用する。



環境にやさしいりんご作り

ごちそうさまでした。